

第5章 キャリアコンサルタントの資格取得状況

1. キャリアコンサルタントの資格取得状況および年齢・性別の特徴

本章では、キャリアコンサルタントの資格取得状況について検討を行う。

図表5-1に、本調査におけるキャリアコンサルティング関連の資格取得状況を示した。最も多いのは「キャリアコンサルタント（経過措置で登録）」57.6%であり、以下、「産業カウンセラー」37.6%、「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」29.6%と続いていた。

ここで「1級キャリアコンサルティング技能士」「2級キャリアコンサルティング技能士」は、キャリアコンサルティング技能検定（国家検定）に合格した者であり、キャリアコンサルティング技能検定では実務経験年数が受検要件として設定されている。したがって、キャリアコンサルティング技能士は、キャリアコンサルタントの上位に位置づけられる。具体的には、キャリアコンサルティング技能士1級は指導レベル、2級は熟練レベルとして位置づけられる」（厚生労働省 HP より）

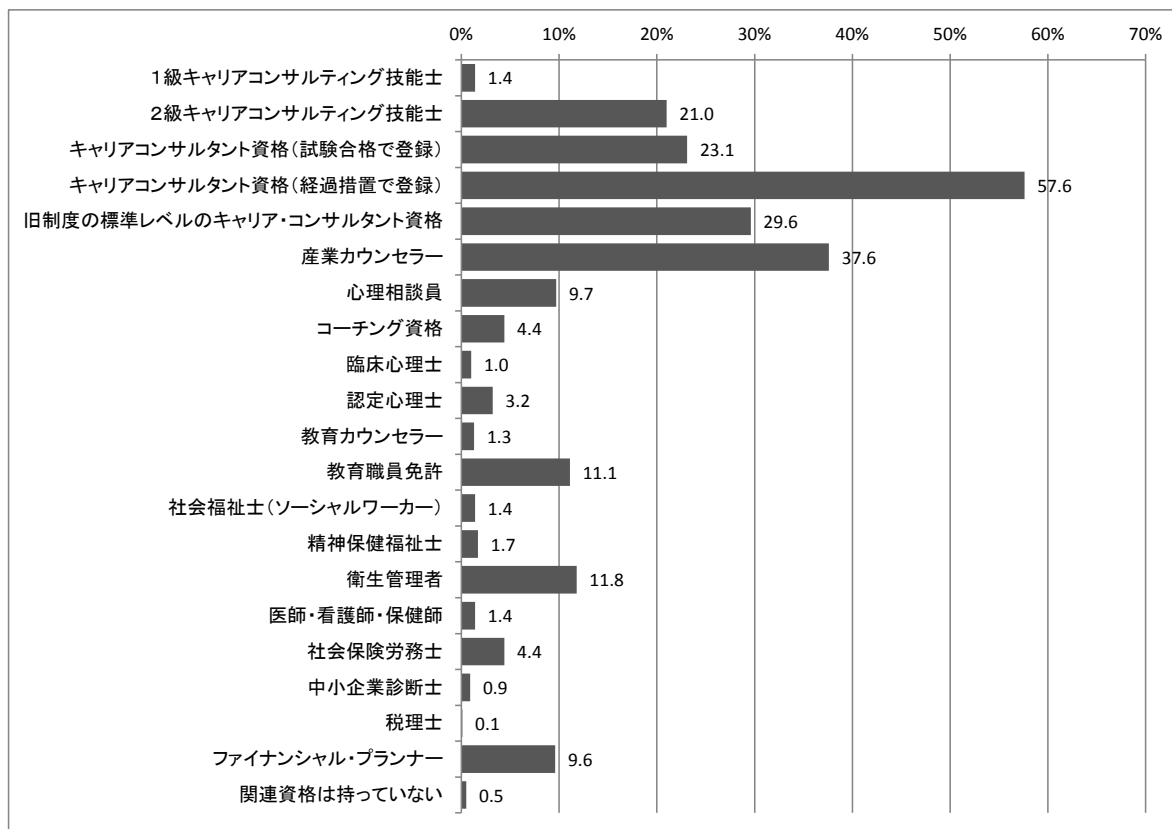
また、「キャリアコンサルタント資格」のうち、（平成28年度以降の試験に合格して登録）した者とは、国家資格となった平成28年度以降に登録試験機関が行うキャリアコンサルタント試験を受験して合格した者である。それに対して、（経過措置で登録）した者とは、平成28年度以前にキャリアコンサルタント試験と同等以上のものであって厚生労働大臣が指定する試験（従前のキャリア・コンサルタント能力評価試験）に合格した者、及びこれと同等以上の能力を有すると認められる者を対象とした経過措置で、国家資格キャリアコンサルタントを取得した者である。経過措置は平成28年4月から5年間の間、認められている。

基本的に、上述の（従前のキャリア・コンサルタント能力評価試験）に合格した者は、「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」と重複する。ただし、「産業カウンセラー」は（従前のキャリア・コンサルタント能力評価試験）に合格した者であるが、「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」とは若干異なるため、別立てとなっている。

通常、図表5-1の「1級キャリアコンサルティング技能士」から「産業カウンセラー」までが、キャリアコンサルティングあるいはキャリアカウンセリング関連の資格と見なされていることが多い。

資格取得状況相互の関連を検討した結果（2値データ間の相関関係を示す4分点相関係数 Φ 係数を求めた）、おおむね以下の傾向を指摘できる。①「1級キャリアコンサルティング技能士」は「2級キャリアコンサルティング技能士」と関連がある。②「2級キャリアコンサルティング技能士」は「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」「産業カウンセラー」と関連がある。③「産業カウンセラー」資格取得者は、「心理相談員」「認定心理士」「教育カウンセラー」「衛生管理者」「医師・看護師・保健師」と関連がある。

図表5-1 調査回答者の資格取得状況



今回の調査回答者は全て国家資格キャリアコンサルタントの登録者であるため、ここで「関連がある」とは、すなわちキャリアコンサルタントの資格と合わせて、さらに双方の資格を重複して取得している割合が大きいことを示す。したがって、「1級キャリアコンサルティング技能士」と「2級キャリアコンサルティング技能士」が相関が高いという結果は、国家資格キャリアコンサルタントの登録者である今回の調査回答者で2級キャリアコンサルティング技能士を持つ者は、同時に1級キャリアコンサルティング技能士の資格も合わせ持つことが多いことを示す。

当然ながら標準キャリアコンから2級技能士、2級技能士から1級技能士といった資格取得のステップとなっている場合に、資格を重複して取得している割合が大きい。ただし、「産業カウンセラー」では、関連する心理学系の資格、衛生管理関係、医療関係の資格を取得している者も多いことが示された。

その他、キャリアコンサルティング関連の資格以外の資格では、①「心理相談員」と「教育カウンセラー」「衛生管理者」、②「教育カウンセラー」と「認定心理士」「精神保健福祉士」、③「精神保健福祉士」と「社会福祉士」、④「衛生管理者」と「医師・看護師・保健師」、⑤「ファイナンシャル・プランナー」と「社会保険労務士」の資格なども、国家資格キャリアコンサルタントと合わせ持っている割合が高いと解釈される資格であった。

図表5-2 取得資格間の関連

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
1 1級キャリアコンサルティング技能士 N=46																					
2 2級キャリアコンサルティング技能士 N=686	.17																				
3 キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録) N=757	-.05	-.22																			
4 キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1886	.01	-.06	-.63																		
5 旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=968	.06	.14	-.31	-.05																	
6 産業カウンセラー N=1230	.08	.14	-.12	.04	.01																
7 心理相談員 N=316	.06	.08	-.06	.02	.04	.35															
8 コーチング資格 N=145	.00	.00	-.03	.04	.02	.02	.03														
9 臨床心理士 N=34	-.01	.01	-.01	.03	-.03	.06	.03	-.01													
10 認定心理士 N=104	.04	.05	-.02	.02	-.03	.15	.09	-.02	.07												
11 教育カウンセラー N=41	.01	.04	-.05	.02	.04	.12	.10	.02	-.01	.11											
12 教育職員免許 N=362	.00	.06	-.03	.02	.03	.04	.02	-.01	.02	.04	.08										
13 社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=45	.01	.01	.00	-.03	-.01	.03	.03	-.01	.04	.08	-.01	.01									
14 精神保健福祉士 N=55	.01	.07	-.02	-.01	-.01	.08	.05	-.02	.06	.10	.01	.00	.35								
15 衛生管理者 N=385	.01	.02	-.03	.05	.00	.10	.17	.01	.00	.00	.02	.02	-.01	-.01							
16 医師・看護師・保健師 N=47	-.01	-.04	.02	.00	-.03	.11	.06	-.03	-.01	-.02	.01	.01	.01	.02	.12						
17 社会保険労務士 N=144	-.01	-.01	.00	.02	-.03	.03	-.01	.00	-.02	-.01	-.01	.02	.00	-.02	.07	-.01					
18 中小企業診断士 N=30	-.01	-.03	-.02	.02	.02	-.01	-.02	.01	-.01	.00	-.01	-.03	.02	-.01	-.02	.02	.01				
19 税理士 N=3	.00	.03	.01	-.04	.03	.00	-.01	-.01	.00	-.01	.09	.02	.00	.00	-.01	.00	-.01	.00			
20 ファイナンシャル・プランナー N=313	.03	.04	-.02	.01	.02	-.01	.03	.03	-.01	.04	.00	.03	.03	-.02	.05	-.03	.12	.03	.09		
21 関連資格は持っていない N=18	-.01	-.04	-.04	-.09	-.05	-.06	-.02	-.02	-.01	-.01	-.01	-.03	-.01	-.01	-.03	-.01	-.02	-.01	.00	-.02	

※数値は4分点相関係数(φ係数)。絶対値.10以上に網かけを付した。

図表5-3には、年齢別の資格取得状況を示した。上述したとおり、「キャリアコンサルタント(経過措置で登録)」「産業カウンセラー」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」の資格を持つ回答者が多かったため、全般的にどの年代でもこれらの資格を持つ者が多かった。ただし、年齢別の資格取得状況の特徴をより詳しく検討するために、 χ^2 検定を行い、5%水準で統計的に有意である箇所について調整済み残差を求めて、どのセルに歪みがあるのかを検討した⁴。

その結果、①概して、20～40代の年齢が若い層で、「キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)」を取得している者が、他の年代に比べて相対的に多かった。一方、②概して、60～70代の年齢が高い層で、「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」「産業カウンセラー」「心理相談員」を取得している者が多かった。「産業カウンセラー」「心理相談員」については50代でも取得している者が相対的に多かった。さらにその他の結果として、③「2級キャリアコンサルティング技能士」を持つ者は60代で相対的に多く、70代以上で「教育カウンセラー」を持つ者が相対的に多かった。④20代、30代では「関連資格は持っていない」との回答も相対的に多かった。

⁴ 本章では、クロス表の分析にあたって、 χ^2 検定を行って5%水準で統計的に有意か否かの確認を行った後、有意となった表について残差分析を行い、5%水準で統計的に有意に値が大きいセルまたは有意に値が小さいセルについて解釈を行う手法を用いた。クロス表の分析の後、残差分析を行い、クロス表のどこに特徴があるのかを確認する統計手法は一般的であるが、表頭および表側のNの数と照らして期待される数値(期待値)からどの程度大きいか(あるいは小さいか)という「歪み」を検討する統計手法であるため、表の見目の%の大小関係と直感的にずれる場合がある。この点について本報告書では、便宜上、「相対的に」「他と比較して」のように表記をして、可能な限り表の見目と齟齬のないように記述した。ただし、本来、当該クロス表が統計的に有意である(≒表頭と表側に関連がみられている)のは、表中の網掛けまたは下線部分に統計的に有意な対応関係があるからであり、そこにこそ特徴的な結果が示されていると解釈の方が正確である。本報告書ではクロス表を解釈するにあたって、表面上の大小関係ではなく、むしろ統計的に有意な結果である網掛けまたは下線部分に着目するよう留意されたい。

図表5-3 取得資格別の年齢

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	sig.
1級キャリアコンサルティング技能士 N=46	0.0%	4.3%	28.3%	58.7%	8.7%	0.0%	
2級キャリアコンサルティング技能士 N=686	0.3%	6.0%	28.9%	41.5%	20.7%	2.6%	**
キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録) N=757	3.6%	15.5%	33.3%	38.0%	9.5%	0.1%	**
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1886	0.5%	10.7%	27.8%	39.9%	17.2%	3.8%	**
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=968	0.4%	10.1%	27.9%	38.3%	18.9%	4.3%	**
産業カウンセラー N=1230	0.3%	7.4%	29.4%	41.2%	18.0%	3.7%	**
心理相談員 N=316	0.0%	2.5%	27.2%	44.9%	20.3%	5.1%	**
コーチング資格 N=145	0.0%	6.2%	31.7%	44.1%	15.9%	2.1%	
臨床心理士 N=34	2.9%	17.6%	38.2%	35.3%	5.9%	0.0%	
認定心理士 N=104	1.9%	11.5%	31.7%	40.4%	14.4%	0.0%	
教育カウンセラー N=41	0.0%	2.4%	19.5%	43.9%	24.4%	9.8%	*
教育職員免許 N=362	0.6%	10.2%	28.7%	44.8%	14.1%	1.7%	
社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=45	2.2%	17.8%	28.9%	40.0%	11.1%	0.0%	
精神保健福祉士 N=55	0.0%	10.9%	25.5%	49.1%	14.5%	0.0%	
衛生管理者 N=385	0.3%	10.9%	28.3%	41.3%	14.5%	4.7%	
医師・看護師・保健師 N=47	0.0%	8.5%	31.9%	46.8%	10.6%	2.1%	
社会保険労務士 N=144	0.0%	9.0%	31.3%	38.9%	17.4%	3.5%	
中小企業診断士 N=30	0.0%	13.3%	23.3%	30.0%	23.3%	10.0%	
税理士 N=3	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	
ファイナンシャル・プランナー N=313	1.0%	12.5%	26.5%	40.9%	18.2%	1.0%	
関連資格は持っていない N=18	11.1%	33.3%	33.3%	16.7%	5.6%	0.0%	**
全体	1.2%	11.3%	29.7%	38.6%	16.3%	2.9%	

※sig.は有意水準、** p<.01 * p<.05。統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい箇所
に網かけ、小さい箇所に下線を付した。

図表5-4には、性別の資格取得状況を示した。性別で取得している資格に違いが示されており、女性は「2級コンサルティング技能士」「産業カウンセラー」「臨床心理士」「認定心理士」「教育職員免許」「社会福祉士(ソーシャルワーカー)」「医師・看護師・保健師」を取得している割合が、男性に比べて統計的に有意に多かった。一方、男性は「衛生管理者」「中小企業診断士」「ファイナンシャル・プランナー」を取得している割合が、女性に比べて統計的に有意に多かった。

図表5-4 取得資格別の性別

	男性	女性	sig.
1級キャリアコンサルティング技能士 N=46	39.1%	60.9%	
2級キャリアコンサルティング技能士 N=686	40.7%	59.3%	**
キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録) N=757	45.6%	54.4%	
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1886	46.6%	53.4%	
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=968	45.7%	54.3%	
産業カウンセラー N=1230	41.1%	58.9%	**
心理相談員 N=316	40.2%	59.8%	
コーチング資格 N=145	40.7%	59.3%	
臨床心理士 N=34	20.6%	79.4%	**
認定心理士 N=104	18.3%	81.7%	**
教育カウンセラー N=41	39.0%	61.0%	
教育職員免許 N=362	30.7%	69.3%	**
社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=45	26.7%	73.3%	*
精神保健福祉士 N=55	32.7%	67.3%	
衛生管理者 N=385	54.5%	45.5%	**
医師・看護師・保健師 N=47	2.1%	97.9%	**
社会保険労務士 N=144	49.3%	50.7%	
中小企業診断士 N=30	76.7%	23.3%	**
税理士 N=3	100.0%	0.0%	
ファイナンシャル・プランナー N=313	53.7%	46.3%	**
関連資格は持っていない N=18	38.9%	61.1%	
全体	45.1%	54.9%	

※sig.は有意水準、** p<.01 * p<.05。統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい方に網かけ、小さい方に下線を付した。

2. 取得資格別の就労形態・業種

図表5-5には、就労形態別の資格取得状況を示した。ここでも全般的に「キャリアコンサルタント（経過措置で登録）」「産業カウンセラー」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」を持つ回答者が多かったが、就労形態別の特徴をみるために、 χ^2 検定を行い調整済み残差を求めて、どのセルに歪みがあるのかを検討した。

その結果、まず、①「正規社員」では「キャリアコンサルタント資格（試験合格で登録）」「衛生管理者」「医師・看護師・保健師」を取得している割合が、他に比べて統計的に有意に多かった。②「非正規社員」では「2級キャリアコンサルティング技能士」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」「産業カウンセラー」「認定心理士」を取得している割合が統計的に有意に多かった。③「キャリアコンサルタントとしてフリー・自営」では「1級キャリアコンサルティング技能士」「2級キャリアコンサルティング技能士」「キャリアコンサルタント資格（経過措置で登録）」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」「心理相談員」「コーチング資格」「ファイナンシャル・プランナー」を取得している割合が、他に比べて統計的に有意に多かった。④「キャリアコンサルタント以外でフリー・自営」では「コーチング資格」「社会保険労務士」「中小企業診断士」「ファイナンシャル・プランナー」を取得している割合が、他に比べて統計的に有意に多かった。その他、個別の結果として、⑤「キャリアコンサルタントとしてボランティア」では「心理相談員」「医師・看護師・保健師」、⑥「キャリアコンサルタント以外でボランティア」では「産業カウンセラー」「税理士」、⑦現在、「無職」では「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」「産業カウンセラー」が多かった。

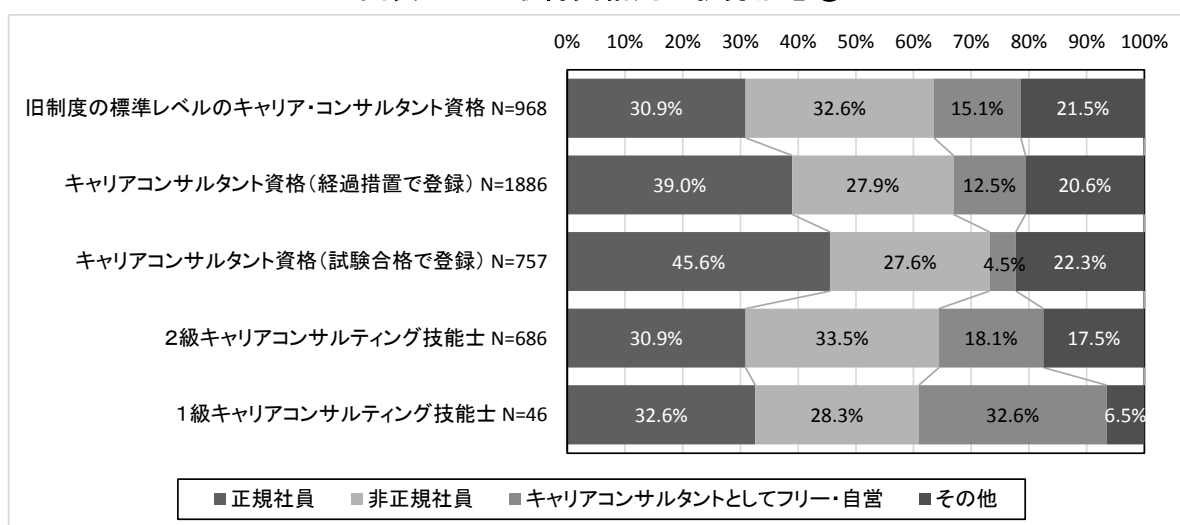
図表5-5 取得資格別の就労形態①

	正規社員	非正規社員	経営・管理職	キャリアコンサルタントとしてフリー・自営	キャリアコンサルタント以外でフリー・自営	キャリアコンサルタントとしてボランティア	キャリアコンサルタント以外でボランティア	無職	sig.
1級キャリアコンサルティング技能士 N=46	32.6%	28.3%	4.3%	32.6%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	**
2級キャリアコンサルティング技能士 N=686	30.9%	33.5%	5.8%	18.1%	5.4%	1.9%	1.2%	3.2%	**
キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録) N=757	45.6%	27.6%	7.5%	4.5%	6.9%	2.0%	2.2%	3.7%	**
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1886	39.0%	27.9%	7.0%	12.5%	6.3%	1.7%	1.6%	4.0%	*
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=968	30.9%	32.6%	6.4%	15.1%	5.4%	2.5%	2.0%	5.2%	**
産業カウンセラー N=1230	33.8%	32.0%	6.0%	10.9%	6.9%	2.4%	2.8%	5.3%	**
心理相談員 N=316	31.6%	27.8%	7.9%	14.6%	6.3%	4.1%	1.9%	5.7%	**
コーチング資格 N=145	29.0%	17.2%	11.0%	24.8%	14.5%	1.4%	0.0%	2.1%	**
臨床心理士 N=34	41.2%	26.5%	2.9%	8.8%	14.7%	0.0%	0.0%	5.9%	
認定心理士 N=104	26.9%	46.2%	3.8%	6.7%	3.8%	2.9%	3.8%	5.8%	**
教育カウンセラー N=41	22.0%	29.3%	7.3%	17.1%	12.2%	4.9%	2.4%	4.9%	
教育職員免許 N=362	40.6%	29.8%	5.2%	9.4%	6.6%	2.5%	2.2%	3.6%	
社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=45	35.6%	40.0%	8.9%	6.7%	0.0%	0.0%	6.7%	2.2%	
精神保健福祉士 N=55	29.1%	41.8%	7.3%	14.5%	0.0%	0.0%	3.6%	3.6%	
衛生管理者 N=385	52.7%	20.5%	9.6%	5.5%	4.7%	2.1%	1.3%	3.6%	**
医師・看護師・保健師 N=47	53.2%	23.4%	2.1%	0.0%	6.4%	6.4%	4.3%	4.3%	*
社会保険労務士 N=144	22.9%	13.2%	9.7%	11.8%	37.5%	0.7%	2.1%	2.1%	**
中小企業診断士 N=30	30.0%	6.7%	13.3%	3.3%	36.7%	6.7%	0.0%	3.3%	**
税理士 N=3	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	**
ファイナンシャル・プランナー N=313	33.2%	25.6%	7.3%	16.6%	9.9%	1.9%	1.6%	3.8%	**
関連資格は持っていない N=18	50.0%	22.2%	0.0%	11.1%	0.0%	5.6%	0.0%	11.1%	
全体	38.9%	28.8%	7.2%	10.9%	6.3%	2.0%	1.9%	4.0%	

※sig.は有意水準。** p<.01 * p<.05。統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい箇所を網かけ、小さい箇所を下線を付した。

図表5-6には、就業形態別の資格取得状況の特徴を明確に示すために、正規社員・非正規社員・フリー自営別に「1級キャリアコンサルティング技能士」「2級キャリアコンサルティング技能士」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」の取得状況を図示した。図表から、「キャリアコンサルタントとしてフリー・自営」として働いている者は、旧制度時代からキャリアコンサルティング資格を取得しており、かつ1級あるいは2級技能士のように一定の経験年数を要する資格を取得している割合が高いことが示される。十分な経験、より高度な資格が、キャリアコンサルタントとしてフリー・自営で活動する上で求められることを指摘できる。

図表5-6 取得資格別の就労形態②



図表5-7に、業種別の資格取得状況を示した。キャリアコンサルティング関連資格を中心にみていくと、まず「1級キャリア・コンサルティング技能士」「2級キャリアコンサルティング技能士」の資格を合わせ持つ回答者は「教育、学習支援(大学等)」「公務(職業相談・職業紹介)」で相対的に割合が多かった。また、「キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)」は「製造業」で相対的に割合が多かった。さらに「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」は「公務(職業相談・職業紹介)」で相対的に割合が多かった。「産業カウンセラー」も「公務(職業相談・職業紹介)」で相対的に割合が多かったが、「医療、福祉」「公務(その他)」でも相対的に割合が多かった。

その他、「製造業」では「衛生管理者」「医師・看護師・保健師」「中小企業診断士」の資格を合わせ持つ者が多かった。「教育、学習支援」では「教育職員免許」を持つ者が多かった。「医療、福祉」では「心理相談員」「臨床心理士」「認定心理士」「社会福祉士(ソーシャルワーカー)」「精神保健福祉士」「医師・看護師・保健師」の資格を持つ者が多かった。

図表5-7 取得資格別の業種①

	製造業	情報 通信業	卸売業・ 小売業	教育、 学習 支援 (大学等)	教育、 学習 支援 (その他)	医療、 福祉	サービス業 (職業紹介、 派遣業)	サービス業 (その他)	公務 (職業相談・ 職業紹介)	公務 (その他)	sig.
1級キャリアコンサルティング技能士 N=30	10.0%	0.0%	0.0%	30.0%	3.3%	0.0%	16.7%	3.3%	33.3%	3.3%	*
2級キャリアコンサルティング技能士 N=434	6.7%	2.5%	2.3%	18.7%	6.9%	3.7%	16.4%	7.6%	27.2%	8.1%	**
キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録) N=524	13.4%	9.0%	5.2%	11.6%	5.3%	6.9%	16.4%	8.6%	15.8%	7.8%	*
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1248	9.8%	6.6%	4.0%	16.9%	6.6%	5.0%	17.4%	9.3%	15.9%	8.7%	
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=612	7.7%	5.7%	3.8%	16.7%	6.9%	3.3%	17.6%	8.0%	21.9%	8.5%	**
産業カウンセラー N=769	12.0%	8.3%	3.9%	10.7%	4.6%	6.9%	9.9%	9.6%	21.7%	12.5%	**
心理相談員 N=185	11.4%	8.1%	2.2%	11.9%	4.9%	10.3%	5.9%	16.8%	18.4%	10.3%	**
コーチング資格 N=71	18.3%	7.0%	1.4%	12.7%	8.5%	7.0%	19.7%	11.3%	8.5%	5.6%	
臨床心理士 N=22	4.5%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	36.4%	9.1%	13.6%	13.6%	18.2%	**
認定心理士 N=66	4.5%	3.0%	1.5%	16.7%	7.6%	13.6%	7.6%	4.5%	27.3%	13.6%	**
教育カウンセラー N=22	0.0%	0.0%	0.0%	36.4%	4.5%	4.5%	4.5%	9.1%	27.3%	13.6%	
教育職員免許 N=237	4.6%	7.2%	2.5%	24.1%	9.7%	6.3%	11.4%	8.4%	16.0%	9.7%	**
社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=33	3.0%	3.0%	0.0%	6.1%	0.0%	57.6%	6.1%	3.0%	3.0%	18.2%	**
精神保健福祉士 N=39	0.0%	0.0%	0.0%	10.3%	2.6%	43.6%	2.6%	10.3%	17.9%	12.8%	**
衛生管理者 N=265	19.2%	9.8%	6.0%	9.4%	3.0%	4.9%	21.1%	10.6%	10.6%	5.3%	**
医師・看護師・保健師 N=36	25.0%	2.8%	5.6%	13.9%	0.0%	27.8%	0.0%	5.6%	11.1%	8.3%	**
社会保険労務士 N=49	10.2%	10.2%	2.0%	20.4%	2.0%	0.0%	8.2%	20.4%	14.3%	12.2%	**
中小企業診断士 N=9	44.4%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	11.1%	*
税理士 N=1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
ファイナンシャル・プランナー N=169	16.0%	7.1%	3.0%	12.4%	2.4%	4.1%	16.0%	8.9%	20.7%	9.5%	
関連資格は持っていない N=10	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	10.0%	40.0%	10.0%	0.0%	10.0%	
全体	10.3%	7.1%	4.4%	15.0%	6.7%	5.5%	17.0%	8.9%	17.0%	8.2%	

*sig.は有意水準。 ** p<.01 * p<.05. 統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい箇所に網かけ、小さい箇所に下線を付した。

調査回答者が働く領域をより明確な形で検討するために、図表5-8には、上述の業種を「企業」「教育」「医療、福祉」「公務」の4つの領域にまとめて結果を示した。また、図表5-9では、図でも示した。

その結果、「2級キャリアコンサルティング技能士」の資格など、一定以上の実務経験年数を要する資格を合わせ持つキャリアコンサルタント登録者は、概して「教育」「公務」の領域に多かった。また、「キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録)」は「教育」、「旧制度の標準レベルのキャリアコンサルタント資格」「産業カウンセラー」は「公務」など、以前からあった資格を取得している回答者は「教育」や「公務」に多かった。

一方で、平成28年以降の試験合格によってキャリアコンサルタント資格を取得した「キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)」は「企業」で多かった。これらの結果から、キャリアコンサルタントの資格が国家資格となり新制度となった現在、「教育」や「公務」の領域から「企業」の領域へと拡大している様子をうかがうことができる。

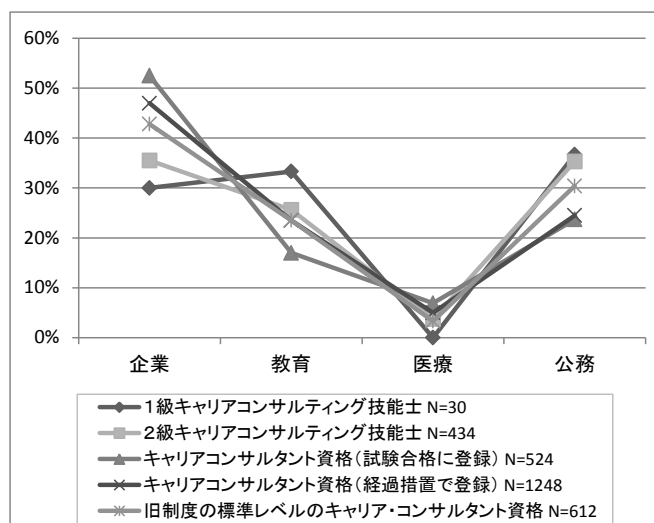
なお、その他、「企業」では「衛生管理者」、「教育」では「教育職員免許」「教育カウンセラー」、「医療、福祉」では「医師・看護師・保健師」「臨床心理士」「認定心理士」「社会福祉士(ソーシャルワーカー)」「精神保健福祉士」など、各領域別に特徴的な資格があり、キャリアコンサルタントは業種に応じた関連資格を取得している場合が多いことが示される。

図表5-8 取得資格別の業種②

	企業	教育	医療	公務	sig.
1級キャリアコンサルティング技能士 N=30	30.0%	33.3%	0.0%	36.7%	
2級キャリアコンサルティング技能士 N=434	35.5%	25.6%	3.7%	35.3%	**
キャリアコンサルタント資格(試験合格に登録) N=524	52.5%	17.0%	6.9%	23.7%	**
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1248	47.0%	23.5%	5.0%	24.5%	
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=612	42.8%	23.5%	3.3%	30.4%	**
産業カウンセラー N=769	43.7%	15.2%	6.9%	34.2%	**
心理相談員 N=185	44.3%	16.8%	10.3%	28.6%	**
コーチング資格 N=71	57.7%	21.1%	7.0%	14.1%	
臨床心理士 N=22	27.3%	4.5%	36.4%	31.8%	**
認定心理士 N=66	21.2%	24.2%	13.6%	40.9%	**
教育カウンセラー N=22	13.6%	40.9%	4.5%	40.9%	**
教育職員免許 N=237	34.2%	33.8%	6.3%	25.7%	**
社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=33	15.2%	6.1%	57.6%	21.2%	**
精神保健福祉士 N=39	12.8%	12.8%	43.6%	30.8%	**
衛生管理者 N=265	66.8%	12.5%	4.9%	15.8%	**
医師・看護師・保健師 N=36	38.9%	13.9%	27.8%	19.4%	**
社会保険労務士 N=49	51.0%	22.4%	0.0%	26.5%	
中小企業診断士 N=9	77.8%	11.1%	0.0%	11.1%	
税理士 N=1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
ファイナンシャル・プランナー N=169	50.9%	14.8%	4.1%	30.2%	
関連資格は持っていない N=10	70.0%	10.0%	10.0%	10.0%	
全体	47.6%	21.7%	5.5%	25.2%	

※sig.は有意水準。 ** p<0.01 * p<0.05。統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい箇所に網かけ、小さい箇所に下線を付した。

図表5-9 取得資格別の業種③



3. 取得資格別の職種・役職

図表5-10に取得資格別の職種を示した。全体的に「(主に) キャリアコンサルタントの仕事」に従事している者が多いが、特に「2級キャリアコンサルティング技能士」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」「認定心理士」の資格を合わせ持つ者で、その割合が多いことが示される。

図表5-11に示されるとおり、概して、資格取得前後に一定の経験年数を要する資格を取得している者ほど、主にキャリアコンサルタントの仕事に従事している割合が高い。平成

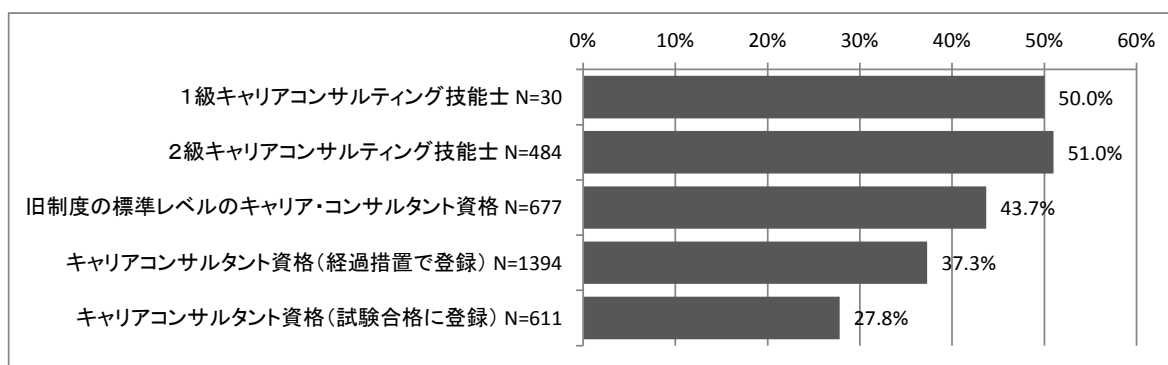
28年以降の資格試験に合格してキャリアコンサルタント資格を取得した者は、資格取得直後の者が多く含まれるが、2級キャリアコンサルティング技能士は5年、1級キャリアコンサルティング技能士は10年の実務経験あるいはそれに相当する学習経験を積んでいる。実務経験・学習経験およびそれに基づく資格の階層性と、実際にキャリアコンサルタントとしての仕事に従事している割合には、一定程度の直線的な対応関係があると指摘できる。

図表5-10 取得資格別の職種

	(主に)キャリアコンサルタントの仕事	人事	総務・経理・管理	営業	企画・マーケティング	サービス・販売	技術・研究職	クリエイティブ	その他	sig.
1級キャリアコンサルティング技能士 N=30	50.0%	10.0%	6.7%	0.0%	3.3%	0.0%	6.7%	0.0%	23.3%	
2級キャリアコンサルティング技能士 N=484	51.0%	10.6%	10.0%	3.3%	1.5%	0.8%	2.3%	0.2%	20.3%	**
キャリアコンサルタント資格(試験合格に登録) N=611	27.8%	15.7%	15.1%	7.7%	5.9%	1.8%	2.9%	0.2%	22.9%	**
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1394	37.3%	13.6%	12.0%	6.0%	3.8%	2.2%	3.9%	0.4%	20.8%	
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=677	43.7%	12.7%	10.9%	5.0%	3.1%	2.4%	2.7%	0.1%	19.4%	**
産業カウンセラー N=833	35.1%	13.7%	14.3%	3.4%	3.1%	1.5%	5.0%	0.6%	23.4%	**
心理相談員 N=213	31.0%	15.5%	16.4%	2.8%	3.8%	2.3%	5.2%	0.0%	23.0%	
コーチング資格 N=83	30.1%	19.3%	18.1%	1.2%	3.6%	1.2%	0.0%	0.0%	26.5%	
臨床心理士 N=24	33.3%	0.0%	0.0%	4.2%	8.3%	0.0%	25.0%	0.0%	29.2%	**
認定心理士 N=80	47.5%	3.8%	5.0%	6.3%	2.5%	2.5%	10.0%	1.3%	21.3%	**
教育カウンセラー N=24	37.5%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	4.2%	4.2%	0.0%	45.8%	**
教育職員免許 N=274	37.2%	10.2%	11.3%	3.6%	4.4%	1.8%	3.3%	0.0%	28.1%	*
社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=38	26.3%	5.3%	2.6%	0.0%	0.0%	2.6%	2.6%	0.0%	60.5%	**
精神保健福祉士 N=43	48.8%	0.0%	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%	4.7%	0.0%	41.9%	**
衛生管理者 N=319	21.6%	25.1%	21.0%	5.6%	3.4%	0.9%	2.5%	0.0%	19.7%	**
医師・看護師・保健師 N=37	18.9%	10.8%	8.1%	0.0%	0.0%	0.0%	5.4%	0.0%	56.8%	**
社会保険労務士 N=66	24.2%	25.8%	16.7%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	31.8%	**
中小企業診断士 N=15	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	6.7%	0.0%	13.3%	6.7%	33.3%	**
税理士 N=1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
ファイナンシャル・プランナー N=207	33.8%	15.0%	12.1%	8.7%	4.8%	1.4%	2.9%	0.0%	21.3%	
関連資格は持っていない N=13	0.0%	15.4%	15.4%	23.1%	15.4%	15.4%	0.0%	0.0%	15.4%	**
全体	35.9%	13.9%	12.9%	6.4%	4.1%	2.1%	3.3%	0.3%	21.1%	

※sig.は有意水準。** p<.01 * p<.05. 統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい箇所に網かけ、小さい箇所に下線を付した。

図表5-11 主なキャリアコンサルティング関連資格別にみた「(主に)キャリアコンサルタントの仕事」に従事している割合



図表5-12には、取得資格別の役職を示した。統計的に有意な箇所が散見されるが、取得している資格と役職の関連について全般的な傾向を指摘することは難しい。ただし、「その他」で「1級キャリアコンサルティング技能士」「産業カウンセラー」の資格を合わせ持つ者が多いという結果からは、これらの回答者が、必ずしも階層型の役職を持つ働き方をしておらず、例えば自営やフリーのような働き方をしている者が多いことをうかがわせる。

また、今回の調査に回答した「経営者、役員」「部長相当職」に就くキャリアコンサルタント登録者は、「コーチング資格」「社会保険労務士」などの資格も合わせ持つ割合が統計的に有意に多く、経営層・管理職層が求めるキャリアコンサルティングのスキルや知識には、部下に対する適切なコーチおよび企業経営上の人事労務管理全般が含まれることを象徴する結果であるとの解釈もできる。

図表5-12 取得資格別の役職

	経営者、 役員	部長 相当職	課長 相当職	係長、 主任、 職長 相当職	役職は 特になし	その他	sig.
1級キャリアコンサルティング技能士 N=30	6.7%	10.0%	13.3%	13.3%	36.7%	20.0%	*
2級キャリアコンサルティング技能士 N=482	9.1%	6.6%	14.9%	10.2%	52.7%	6.4%	**
キャリアコンサルタント資格(試験合格に登録) N=611	5.7%	10.6%	11.3%	17.7%	49.9%	4.7%	*
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1394	7.6%	10.0%	15.0%	13.2%	48.8%	5.4%	
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=677	7.5%	8.9%	14.6%	12.1%	51.3%	5.6%	
産業カウンセラー N=883	5.1%	9.2%	13.4%	13.3%	52.5%	6.6%	**
心理相談員 N=213	7.0%	13.1%	14.1%	10.8%	47.9%	7.0%	
コーチング資格 N=83	14.5%	20.5%	15.7%	12.0%	32.5%	4.8%	**
臨床心理士 N=24	4.2%	4.2%	0.0%	29.2%	58.3%	4.2%	
認定心理士 N=80	3.8%	2.5%	2.5%	10.0%	73.8%	7.5%	**
教育カウンセラー N=24	8.3%	8.3%	16.7%	4.2%	50.0%	12.5%	
教育職員免許 N=274	5.5%	8.8%	14.6%	13.5%	51.5%	6.2%	
社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=38	10.5%	2.6%	5.3%	13.2%	63.2%	5.3%	
精神保健福祉士 N=43	7.0%	4.7%	4.7%	9.3%	65.1%	9.3%	
衛生管理者 N=319	6.6%	15.4%	19.7%	17.2%	38.6%	2.5%	**
医師・看護師・保健師 N=37	2.7%	0.0%	2.7%	27.0%	59.5%	8.1%	*
社会保険労務士 N=66	19.7%	18.2%	6.1%	15.2%	37.9%	3.0%	**
中小企業診断士 N=15	26.7%	6.7%	20.0%	26.7%	6.7%	13.3%	**
税理士 N=1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
ファイナンシャル・プランナー N=207	9.7%	8.2%	14.0%	13.5%	48.8%	5.8%	
関連資格は持っていない N=13	0.0%	7.7%	15.4%	23.1%	53.8%	0.0%	
全体	7.5%	9.8%	13.7%	14.2%	49.8%	5.1%	

※sig.は有意水準、** p<.01 * p<.05. 統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい箇所に網かけ、小さい箇所に下線を付した。

4. 取得資格別の活動内容

図表5-13には、取得資格別の「キャリアコンサルティングに関する活動」を示した。図表から「1級キャリアコンサルティング技能士」「2級キャリアコンサルティング技能士」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」を合わせ持つ者は、「ほぼ毎日活動している」と回答した割合が多いことが示される。一方で、現在「活動していない」という回答は「キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)」「産業カウンセラー」で割合が相対的に多かった。前者は資格取得直後、後者は年齢が高い資格取得者が多く含まれており、その結果、活動していない割合が若干高かったものと考えられる。また、「不定期に活動している」者は、「衛生管理者」「医師・看護師・保健師」「社会保険労務士」の資格を合わせ持つ者が多く、これらの資格をもとにした活動のかたわら、キャリアコンサルティング関連の活動をしている様子がうかがえる。

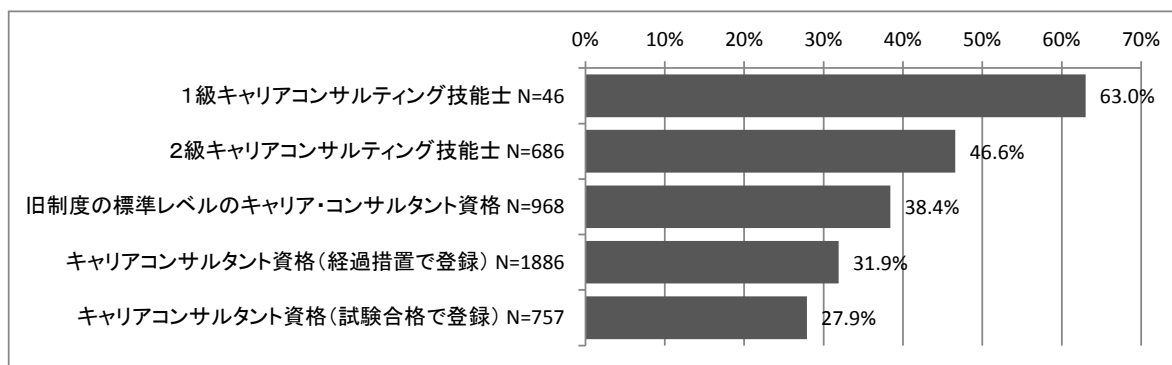
図表5-13 取得資格別の「キャリアコンサルティングに関する活動」

	ほぼ毎日活動している	週2~3回程度活動している	週1回程度活動している	不定期に活動している	活動していない	sig.
1級キャリアコンサルティング技能士 N=46	63.0%	21.7%	4.3%	10.9%	0.0%	**
2級キャリアコンサルティング技能士 N=686	46.6%	15.2%	7.1%	22.4%	8.6%	**
キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録) N=757	27.9%	10.6%	5.4%	27.2%	28.9%	**
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1886	31.9%	14.3%	6.7%	29.5%	17.7%	**
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=968	38.4%	14.3%	6.4%	25.9%	15.0%	**
産業カウンセラー N=1230	28.4%	12.4%	6.3%	29.0%	24.0%	**
心理相談員 N=316	26.3%	15.2%	6.6%	32.0%	19.9%	
コーチング資格 N=145	24.1%	24.8%	9.0%	31.0%	11.0%	**
臨床心理士 N=34	26.5%	26.5%	11.8%	26.5%	8.8%	
認定心理士 N=104	32.7%	13.5%	4.8%	26.0%	23.1%	
教育カウンセラー N=41	22.0%	14.6%	14.6%	39.0%	9.8%	*
教育職員免許 N=362	30.1%	17.4%	6.6%	26.0%	19.9%	
社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=45	31.1%	17.8%	4.4%	28.9%	17.8%	
精神保健福祉士 N=55	43.6%	10.9%	5.5%	21.8%	18.2%	
衛生管理者 N=385	20.3%	11.4%	6.5%	39.5%	22.3%	**
医師・看護師・保健師 N=47	6.4%	4.3%	6.4%	44.7%	38.3%	**
社会保険労務士 N=144	13.2%	12.5%	9.7%	50.0%	14.6%	**
中小企業診断士 N=30	0.0%	16.7%	23.3%	36.7%	23.3%	**
税理士 N=3	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	
ファイナンシャル・プランナー N=313	27.2%	18.8%	6.4%	30.0%	17.6%	*
関連資格は持っていない N=18	5.6%	5.6%	5.6%	22.2%	61.1%	**
全体	31.9%	13.3%	6.4%	28.2%	20.3%	

※sig.は有意水準、** p<.01 * p<.05。統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい箇所に網かけ、小さい箇所に下線を付した。

図表5-14には、主なキャリアコンサルティング資格別にみた「ほぼ毎日活動している」割合を示した。先に図表5-10で示した結果と同様、「ほぼ毎日活動している」割合についても、資格取得前後に一定の経験年数を要する専門性が高いと位置づけられている資格を合わせ持つ者ほど、キャリアコンサルタントとして毎日活動している割合が高いことがうかがえた。図に示したとおり、1級キャリアコンサルティング技能士>2級キャリアコンサルティング技能士>旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格>キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録)>キャリアコンサルタント(試験合格で登録)の順に、キャリアコンサルタントとして毎日活動していることが明確に示されている。

図表5-14 主なキャリアコンサルティング関連資格別にみた「ほぼ毎日活動している」割合



図表5-15に、取得資格別の活動内容を示した。この項目は以下の教示文で割合を数値で記入して回答するように求めた。「直近1年間の「キャリアコンサルティングに関連する活動」を内容別にみた場合、それぞれの活動時間はどのくらいですか。おおよそで構いませんので割合(%)で記入してください。全体を合計して100%になるように、数字を割り当ててください。」

表は「相談、面談、カウンセリング」の割合が大きい順に資格を並べた。最も「相談、面談、カウンセリング」の割合が多いのは、「臨床心理士」の資格を合わせ持つ者であり、活動内容の7割強が相談に費やされていた。以下、「認定心理士」「医師・看護師・保健師」「精神保健福祉士」「社会福祉士」の順に続いており、相談が活動内容の6～7割を占めた。概して、より専門的な心理学的知識を要する資格あるいは医療・福祉の領域で働くことが多い資格を合わせ持つ者で「相談、面談、カウンセリング」の割合が多いことが示される。

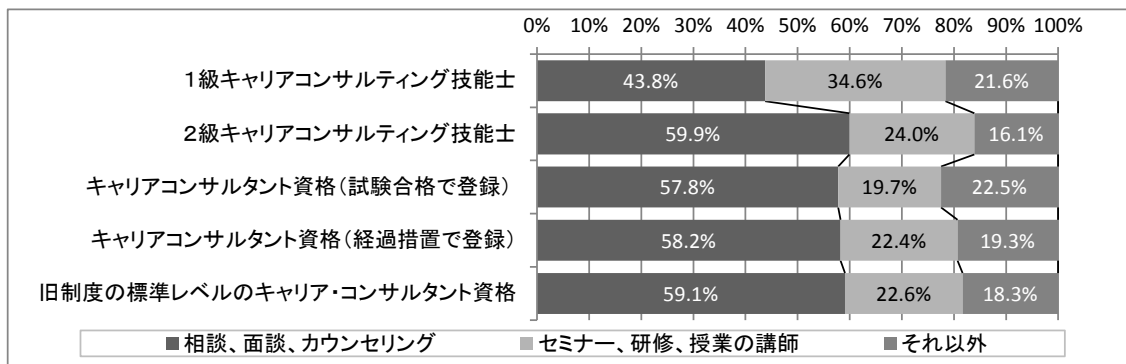
なお、「産業カウンセラー」「2級キャリアコンサルティング技能士」「心理相談員」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」等の資格を持つ者は、相談に費やす時間が約6割前後であったのに対して、「1級キャリアコンサルティング技能士」では4割であった。

図表5-16に、主なキャリアコンサルティング関連資格別にみた活動内容を示したが、「1級キャリアコンサルティング技能士」の資格を有する者は、「相談、面談、カウンセリング」が活動内容に占める割合が低く、「セミナー、研修、授業の講師」「それ以外」の活動に時間を費やす割合が多いことが示される。

図表5-15 取得資格別の活動内容

	相談、 面談、 カウ ンセ リング	セミナー、 研修、 授業の 講師	それ以外
臨床心理士 N=31	73.9%	15.0%	11.1%
認定心理士 N=80	69.9%	18.9%	11.3%
医師・看護師・保健師 N=29	66.6%	12.0%	21.4%
精神保健福祉士 N=45	64.5%	16.4%	19.0%
社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=37	63.7%	17.5%	18.8%
ファイナンシャル・プランナー N=258	61.0%	22.1%	16.8%
産業カウンセラー N=935	60.4%	20.7%	18.8%
2級キャリアコンサルティング技能士 N=627	59.9%	24.0%	16.1%
心理相談員 N=253	59.5%	22.3%	18.1%
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=823	59.1%	22.6%	18.3%
全体	58.5%	21.8%	19.7%
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1553	58.2%	22.4%	19.3%
衛生管理者 N=299	58.2%	20.1%	21.7%
教育職員免許 N=290	58.0%	24.1%	17.9%
キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録) N=538	57.8%	19.7%	22.5%
社会保険労務士 N=123	56.6%	24.2%	19.3%
教育カウンセラー N=37	48.2%	30.8%	21.0%
コーチング資格 N=129	47.8%	35.3%	16.9%
税理士 N=3	46.7%	5.0%	48.3%
1級キャリアコンサルティング技能士 N=46	43.8%	34.6%	21.6%
関連資格は持っていない N=7	35.0%	42.1%	22.9%
中小企業診断士 N=23	32.9%	21.7%	45.4%

図表5-16 主なキャリアコンサルティング関連資格別に見た活動内容



5. 取得資格別の活動年数、専業・兼業の割合

図表5-17には、取得資格別のキャリアコンサルタントとしての通算活動年数を示した。表から、「10年以上」が他に比べて統計的に有意に多かったのは、「1級キャリアコンサルティング技能士」「2級キャリアコンサルティング技能士」「キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録)」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」「産業カウンセラー」「心理相談員」「臨床心理士」「教育カウンセラー」「教育職員免許」「衛生管理者」であった。また、「5年以上10年未満」が統計的に有意に多かったのは「2級キャリアコンサルティング技能士」「キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録)」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」であった。一方で、「キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)」では「1年以上5年未満」「1年未満」が統計的に有意に多かった。

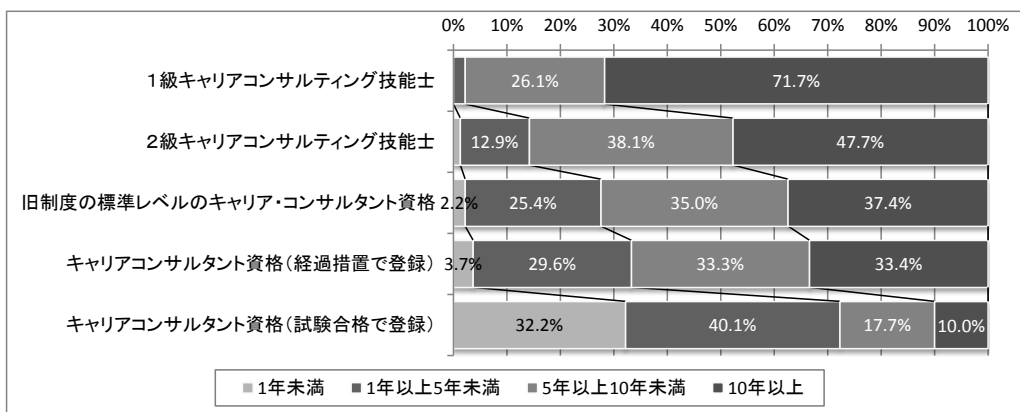
図表5-17 取得資格別のキャリアコンサルタントとしての通算活動年数①

	1年未満	1年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上	sig.
1級キャリアコンサルティング技能士 N=46	0.0%	2.2%	26.1%	71.7%	**
2級キャリアコンサルティング技能士 N=627	1.3%	12.9%	38.1%	47.7%	**
キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録) N=538	32.2%	40.1%	17.7%	10.0%	**
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1553	3.7%	29.6%	33.3%	33.4%	**
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=823	2.2%	25.4%	35.0%	37.4%	**
産業カウンセラー N=935	6.4%	29.6%	30.7%	33.3%	**
心理相談員 N=253	3.6%	28.9%	28.9%	38.7%	**
コーチング資格 N=129	7.0%	26.4%	28.7%	38.0%	
臨床心理士 N=31	6.5%	19.4%	19.4%	54.8%	*
認定心理士 N=80	11.3%	27.5%	32.5%	28.8%	
教育カウンセラー N=37	2.7%	18.9%	16.2%	62.2%	**
教育職員免許 N=290	5.2%	28.6%	26.2%	40.0%	**
社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=37	2.7%	37.8%	35.1%	24.3%	
精神保健福祉士 N=45	2.2%	22.2%	33.3%	42.2%	
衛生管理者 N=299	6.4%	28.8%	28.8%	36.1%	*
医師・看護師・保健師 N=29	13.8%	37.9%	27.6%	20.7%	
社会保険労務士 N=123	17.9%	26.0%	22.0%	34.1%	**
中小企業診断士 N=23	4.3%	39.1%	39.1%	17.4%	
税理士 N=3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	
ファイナンシャル・プランナー N=258	8.5%	34.5%	32.6%	24.4%	
関連資格は持っていない N=7	14.3%	28.6%	28.6%	28.6%	
全体	9.3%	30.3%	30.5%	29.8%	

※sig.は有意水準、** p<.01 * p<.05。統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい箇所に網かけ、小さい箇所に下線を付した。

図表5-18には、主なキャリアコンサルティング資格別にみた通算活動年数を図示した。1級および2級キャリアコンサルティング技能士のように資格取得にあたって一定の経験年数を要するものがあるため、資格と通算活動年数には直線的な比例関係がみられている。当然の結果とも解釈されるが、初歩的な導入資格としての性格をもつキャリアコンサルタント資格とより高度な資格と位置づけられる技能士資格との間に、正確に経験年数・実績年数の対応関係がみられていることは、キャリアコンサルタント資格の序列が現実に維持されていることの証となる。素朴ではあるが重要な結果であると考えられる。

図表5-18 取得資格別のキャリアコンサルタントとしての通算活動年数②



図表5-19には、取得資格別の専業・兼業の割合を示した。この質問項目は、まず「キャリアコンサルティングに関連する活動」に専任・専業で関わっているか、あるいは兼任・兼業で関わっているかの回答を求め、さらに兼任・兼業の場合には「キャリアコンサルティングに関連する活動」が全体に占める割合を%で数字で記入してもらった。

表に示されるとおり、「1級キャリアコンサルティング技能士」の資格を合わせ持つ者では「専任・専業」の割合が高く、56.5%であった。また、「2級キャリアコンサルティング技能士」の資格を持つ者も「専任・専業」の割合が比較的高く46.9%であった。また、「75%以上」の割合も高かった。「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」を持つ者も「専任・専業」の割合が高く、42.9%であった。一方で、「衛生管理者」「医師・看護師・保健師」「社会保険労務士」「中小企業診断士」の資格を合わせ持つ者は、概してキャリアコンサルティングとしての活動の割合は「25%未満」の者が多く、これらの資格を必要とする仕事のかたわらで必要に応じてキャリアコンサルティングの活動に従事していることをうかがわせる結果であった。

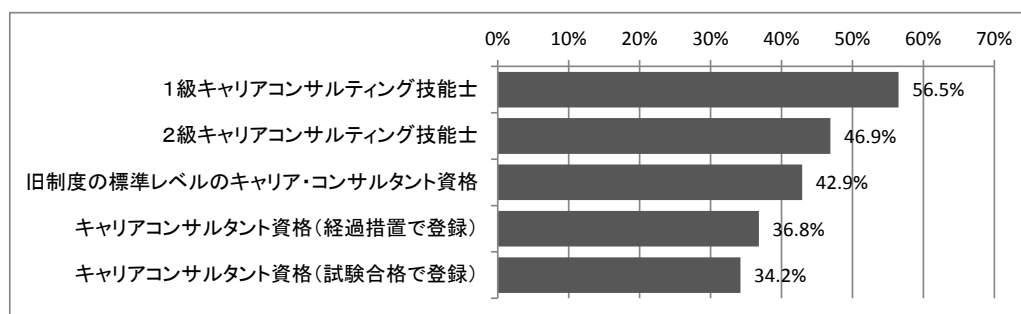
図表5-20には、主なキャリアコンサルティング関連資格別にみた専任・専業の割合を示した。1級キャリアコンサルティング技能士からキャリアコンサルタント資格(試験合格)に至るまで、上級資格ほどあるいは経験年数を要する資格ほど専任・専業の割合が高いことがうかがえる。

図表5-19 取得資格別の専業・兼業の割合

	25%未満	25～50%	50～75%	75%以上	専任・ 専業	sig.
1級キャリアコンサルティング技能士 N=46	17.4%	4.3%	21.7%	0.0%	56.5%	**
2級キャリアコンサルティング技能士 N=627	25.0%	7.3%	15.9%	4.8%	46.9%	**
キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録) N=538	35.7%	13.0%	16.0%	1.1%	34.2%	**
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1553	33.5%	12.6%	13.1%	4.1%	36.8%	
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=823	28.6%	11.5%	12.9%	4.1%	42.9%	**
産業カウンセラー N=935	35.3%	12.2%	11.1%	3.4%	38.0%	
心理相談員 N=253	36.4%	9.9%	17.4%	4.7%	31.6%	
コーチング資格 N=129	33.3%	17.8%	17.1%	5.4%	26.4%	
臨床心理士 N=31	35.5%	12.9%	12.9%	3.2%	35.5%	
認定心理士 N=80	31.3%	11.3%	8.8%	1.3%	47.5%	
教育カウンセラー N=37	37.8%	13.5%	13.5%	0.0%	35.1%	
教育職員免許 N=290	34.5%	9.7%	16.6%	3.1%	36.2%	
社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=37	35.1%	21.6%	13.5%	5.4%	24.3%	
精神保健福祉士 N=45	17.8%	11.1%	17.8%	8.9%	44.4%	
衛生管理者 N=299	50.5%	10.7%	10.0%	2.0%	26.8%	**
医師・看護師・保健師 N=29	72.4%	10.3%	3.4%	0.0%	13.8%	**
社会保険労務士 N=123	61.8%	11.4%	13.8%	0.8%	12.2%	**
中小企業診断士 N=23	56.5%	34.8%	8.7%	0.0%	0.0%	**
税理士 N=3	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	
ファイナンシャル・プランナー N=258	38.0%	11.2%	14.7%	5.0%	31.0%	
関連資格は持っていない N=7	71.4%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	
全体	33.0%	12.3%	13.9%	3.4%	37.3%	

※sig.は有意水準、** p<0.01。統計的に有意な行について、最も大きな値に網かけ、最も小さな値に下線を付した。

図表5-20 主なキャリアコンサルティング関連資格別に見た専任・専業の割合



6. 取得資格別の生計状況、年収

図表5-21には、資格取得別の生計状況を示した。表から「1級キャリアコンサルティング技能士」「2級キャリアコンサルティング技能士」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」の資格を合わせ持つ者は、「キャリアコンサルティングに関連する活動だけで生計を立てている」割合が、他に比べて統計的に有意に多かった。また、「2級キャリアコンサルティング技能士」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」を持つ者では「主に生計を立てている」割合も多かった。

一方で、「コーチング資格」「社会福祉士(ソーシャルワーカー)」「社会保険労務士」を合わせ持つ者では「キャリアコンサルティングに関連する活動以外で、主に生計を立てている」

割合が多かった。また、「衛生管理者」「医師・看護師・保健師」では「キャリアコンサルティングに関連する活動以外だけで、主に生計を立てている」割合が多かった。概して、上述の専業・兼業の割合と対応しており、専任・専業割合が高い資格取得者で、キャリアコンサルティングに関連する活動だけで生計を立てていると回答した者が多かった。

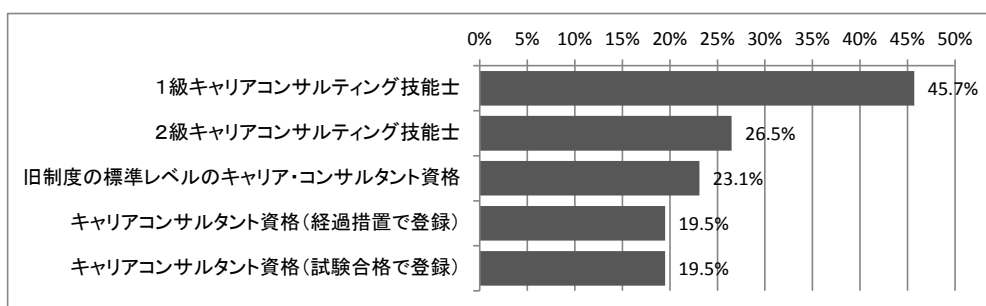
図表5-22には、主なキャリアコンサルティング関連資格別に生計状況、とくに「キャリアコンサルティングに関連する活動だけで生計を立てている」割合を示した。1級キャリアコンサルティング技能士を合わせ持つ者では、約半数がキャリアコンサルティングに関連する活動だけで生計を立てていると回答していた。

図表5-21 資格取得別の生計状況

	「キャリア コンサル ティングに 関連する 活動」だけ で、生計を 立てている	「キャリア コンサル ティングに 関連する 活動」で、 主に生計を 立てている	「キャリア コンサル ティングに 関連する 活動」以外 で、主に 生計を 立てている	「キャリア コンサル ティングに 関連する 活動」以外 だけで、 生計を立て ている	sig.
1級キャリアコンサルティング技能士 N=46	45.7%	23.9%	28.3%	2.2%	**
2級キャリアコンサルティング技能士 N=627	26.5%	27.6%	35.4%	10.5%	**
キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録) N=538	19.5%	19.5%	40.3%	20.6%	
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1553	19.5%	22.1%	41.5%	16.9%	
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=823	23.1%	24.9%	38.9%	13.1%	**
産業カウンセラー N=935	19.4%	20.5%	42.6%	17.5%	
心理相談員 N=253	13.8%	25.7%	43.9%	16.6%	
コーチング資格 N=129	12.4%	23.3%	50.4%	14.0%	
臨床心理士 N=31	12.9%	22.6%	54.8%	9.7%	
認定心理士 N=80	21.3%	18.8%	42.5%	17.5%	
教育カウンセラー N=37	5.4%	27.0%	40.5%	27.0%	
教育職員免許 N=290	15.2%	29.0%	38.3%	17.6%	**
社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=37	2.7%	27.0%	56.8%	13.5%	
精神保健福祉士 N=45	15.6%	31.1%	42.2%	11.1%	
衛生管理者 N=299	9.0%	21.7%	44.8%	24.4%	**
医師・看護師・保健師 N=29	10.3%	3.4%	44.8%	41.4%	**
社会保険労務士 N=123	5.7%	15.4%	63.4%	15.4%	**
中小企業診断士 N=23	0.0%	8.7%	60.9%	30.4%	**
税理士 N=3	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	
ファイナンシャル・プランナー N=258	15.5%	22.1%	44.6%	17.8%	
関連資格は持っていない N=7	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%	
全体	20.3%	21.8%	41.0%	16.9%	

※sig.は有意水準、** p<.01 * p<.05。統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい箇所に網かけ、小さい箇所に下線を付した。

図表5-22 主なキャリアコンサルティング関連資格別にみた「キャリアコンサルティングに関連する活動だけで生計を立てている」割合



図表5-23には、取得資格別の最近1年間のおおよその税込み年収を示した。表から、全般的には「200～400万円未満」あるいは「400～600万円未満」の者が多く、これらで半数強を占める。ただし、統計的に有意な箇所がいくつか見られており、若干、資格ごとに特徴のある箇所がみられた。まず、①「1級キャリアコンサルティング技能士」「衛生管理者」「中小企業診断士」の資格を合わせ持つ者では、「800万円以上」の割合が他に比べて統計的に有意に高かった。②「衛生管理者」「医師・看護師・保健師」の資格を合わせ持つ者では「600～800万円未満」の割合が他に比べて統計的に有意に高かった。また、「医師・看護師・保健師」では「400～600万円未満」の割合も他に比べて統計的に有意に高かった。一方で、③「2級キャリアコンサルティング技能士」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」「認定心理士」の資格を持つ者では「200～400万円未満」の割合が統計的に有意に高かった。④「心理相談員」「教育職員免許」の資格を持つ者では「200万円未満」の割合が統計的に有意に多かった。

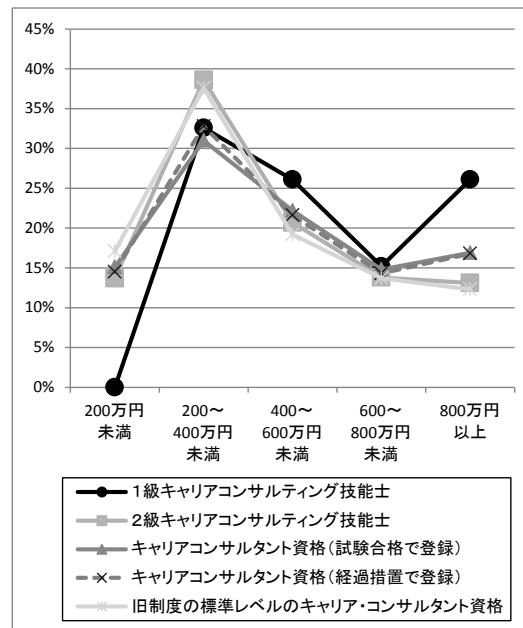
以上の結果を、キャリアコンサルタント関連資格について解釈した場合、図表5-24に示したとおり、1級キャリアコンサルティング技能士を合わせ持つ場合、800万円以上と比較的高収入を得ている者が、他に比べればやや多い一方で、2級キャリアコンサルティング技能士や旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格では200～400万円未満の収入を得ている割合がやや高いことが示される。

図表5-23 取得資格別の最近1年間のおおよその税込み年収

	200万円 未満	200～ 400万円 未満	400～ 600万円 未満	600～ 800万円 未満	800万円 以上	sig.
1級キャリアコンサルティング技能士 N=46	0.0%	32.6%	26.1%	15.2%	26.1%	*
2級キャリアコンサルティング技能士 N=686	13.7%	38.6%	20.7%	13.8%	13.1%	**
キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録) N=757	15.1%	31.0%	22.2%	14.8%	16.9%	
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1886	14.5%	32.8%	21.6%	14.3%	16.8%	
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=968	17.1%	37.6%	19.2%	13.7%	12.3%	**
産業カウンセラー N=1230	17.7%	33.8%	19.8%	13.9%	14.8%	
心理相談員 N=316	20.3%	32.0%	16.1%	14.2%	17.4%	*
コーチング資格 N=145	15.2%	24.1%	22.8%	15.9%	22.1%	
臨床心理士 N=34	11.8%	29.4%	38.2%	8.8%	11.8%	
認定心理士 N=104	22.1%	42.3%	19.2%	8.7%	7.7%	*
教育カウンセラー N=41	19.5%	43.9%	17.1%	7.3%	12.2%	
教育職員免許 N=362	20.7%	27.6%	22.7%	13.8%	15.2%	*
社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=45	20.0%	44.4%	22.2%	8.9%	4.4%	
精神保健福祉士 N=55	12.7%	40.0%	32.7%	7.3%	7.3%	
衛生管理者 N=385	8.1%	23.6%	23.4%	24.9%	20.0%	**
医師・看護師・保健師 N=47	19.1%	14.9%	34.0%	27.7%	4.3%	**
社会保険労務士 N=144	11.1%	27.8%	26.4%	18.8%	16.0%	
中小企業診断士 N=30	10.0%	23.3%	23.3%	6.7%	36.7%	*
税理士 N=3	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	
ファイナンシャル・プランナー N=313	13.1%	32.3%	24.0%	13.1%	17.6%	
関連資格は持っていない N=18	16.7%	38.9%	27.8%	11.1%	5.6%	
全体	15.7%	33.2%	21.5%	14.1%	15.5%	

※sig.は有意水準、** p<.01 * p<.05。統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい箇所に網かけ、小さい箇所に下線を付した。

図表5-24 主なキャリアコンサルティング関連資格別にみた
最近1年間のおおよその税込み年収



7. 取得資格別の意識

図表5-25には、取得資格に対する満足感を示した。キャリアコンサルティング関連資格を中心にみた場合、表から「1級キャリアコンサルティング技能士」「2級キャリアコンサルティング技能士」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」で「とても満足している」「やや満足している」が、他の資格に比べて統計的に有意に高いことが示される。また、「キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録)」も「やや満足している」が他の資格に比べて多かった。一方、「キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)」「産業カウンセラー」では「満足していない」が、他の資格に比べて統計的に有意に高いことが示された。

図表5-26には、取得資格に対する有用感を示した。上の満足感とおおむね類似の結果であり、「1級キャリアコンサルティング技能士」「2級キャリアコンサルティング技能士」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」で「とても役立っている」が、他の資格に比べて統計的に有意に高いことが示された。一方で、「キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)」「産業カウンセラー」では「役立っていない」が、他の資格に比べて統計的に有意に高いことが示された。

これら満足感・有用感の結果から、「1級キャリアコンサルティング技能士」「2級キャリアコンサルティング技能士」「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」など、従来からのキャリアコンサルティング関連資格の取得者は、基本的には自らの資格に満足感および有用感を持っていることが示される。

なお、「キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)」「産業カウンセラー」で、満足感および有用感が低かった理由として、「キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)」は

おもに年齢が若い企業内の正社員である割合が多く、別の箇所の図表でも示されるとおり、十分にキャリアコンサルティング関連資格を活かした活動ができていないためであると考えられる。一方、「産業カウンセラー」は古くからある伝統的な資格であるために、相対的に資格取得者の年齢が高く、既に第一線を引き、資格を活かせる活動を行っていない場合が多いことによると考えられる。

図表5-25 取得資格に対する満足感

	とても満足している	やや満足している	どちらとも言えない	あまり満足していない	満足していない
1級キャリアコンサルティング技能士	19.6%	45.7%	21.7%	13.0%	0.0%
2級キャリアコンサルティング技能士	11.8%	38.5%	22.2%	18.2%	9.3%
キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)	5.8%	20.7%	22.1%	23.0%	28.4%
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録)	9.3%	28.7%	25.8%	20.4%	15.8%
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格	10.4%	31.3%	24.3%	19.2%	14.8%
産業カウンセラー	8.0%	24.7%	24.8%	20.8%	21.6%
心理相談員	9.2%	29.4%	23.7%	19.3%	18.4%
コーチング資格	10.3%	33.8%	23.4%	20.7%	11.7%
臨床心理士	2.9%	17.6%	50.0%	23.5%	5.9%
認定心理士	2.9%	29.8%	20.2%	23.1%	24.0%
教育カウンセラー	14.6%	31.7%	29.3%	17.1%	7.3%
教育職員免許	10.5%	26.2%	25.7%	22.4%	15.2%
社会福祉士(ソーシャルワーカー)	13.3%	17.8%	24.4%	20.0%	24.4%
精神保健福祉士	10.9%	34.5%	25.5%	9.1%	20.0%
衛生管理者	6.8%	23.6%	26.0%	21.3%	22.3%
医師・看護師・保健師	6.4%	8.5%	23.4%	19.1%	42.6%
社会保険労務士	6.3%	28.5%	22.9%	24.3%	18.1%
中小企業診断士	0.0%	20.0%	26.7%	23.3%	30.0%
税理士	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
ファイナンシャル・プランナー	7.3%	33.5%	24.6%	19.8%	14.7%
関連資格は持っていない	0.0%	11.1%	22.2%	22.2%	44.4%

※sig.は有意水準、** p<.01 * p<.05。統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい箇所に網かけ、小さい箇所に下線を付した。

図表5-26 取得資格に対する有用感

	とても役立っている	やや役立っている	どちらとも言えない	あまり役立っていない	ほとんど役立っていない
1級キャリアコンサルティング技能士	67.4%	28.3%	2.2%	2.2%	0.0%
2級キャリアコンサルティング技能士	48.7%	37.2%	7.3%	4.1%	2.8%
キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)	33.7%	39.0%	11.4%	7.5%	8.5%
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録)	38.4%	39.1%	11.9%	6.2%	4.3%
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格	42.7%	37.0%	9.4%	6.7%	4.2%
産業カウンセラー	33.7%	39.8%	11.4%	8.1%	6.9%
心理相談員	36.1%	38.3%	12.0%	7.6%	6.0%
コーチング資格	42.1%	37.9%	10.3%	6.9%	2.8%
臨床心理士	26.5%	23.5%	29.4%	17.6%	2.9%
認定心理士	33.7%	33.7%	11.5%	8.7%	12.5%
教育カウンセラー	34.1%	43.9%	17.1%	4.9%	0.0%
教育職員免許	36.7%	42.3%	9.7%	4.1%	7.2%
社会福祉士(ソーシャルワーカー)	33.3%	44.4%	11.1%	6.7%	4.4%
精神保健福祉士	36.4%	41.8%	14.5%	5.5%	1.8%
衛生管理者	32.7%	41.3%	12.2%	7.0%	6.8%
医師・看護師・保健師	21.3%	27.7%	21.3%	12.8%	17.0%
社会保険労務士	36.1%	41.0%	16.0%	3.5%	3.5%
中小企業診断士	23.3%	30.0%	33.3%	6.7%	6.7%
税理士	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
ファイナンシャル・プランナー	41.2%	40.6%	10.2%	4.8%	3.2%
関連資格は持っていない	22.2%	44.4%	16.7%	5.6%	11.1%

※sig.は有意水準、** p<.01 * p<.05。統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい箇所に網かけ、小さい箇所に下線を付した。

図表5-27には、取得資格別にみた今後に必要なキャリアコンサルティングのあり方を示した。キャリアコンサルティング関連資格を中心にみた場合、それぞれ資格ごとに統計的に有意な箇所が異なっており、特徴があることが示される。まず、①「1級キャリアコンサルティング技能士」は「組織開発や組織文化に取り組むキャリアコンサルタント」が必要になると、他に比べて統計的に有意に多く回答した。これは「コーチング資格」「中小企業診断士」も同様であった。②「キャリアコンサルタント資格（試験合格で登録）」の取得者は「専門領域別のキャリアコンサルタント」「業種別・業界別のキャリアコンサルタント」「ハラスメントの問題に専門的に関わるキャリアコンサルタント」が必要になると、他に比べて多く回答した。③「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」の取得者は「ダイバーシティ、多文化の問題に関わるキャリアコンサルタント」が必要になると、他に比べて多く回答した。④「産業カウンセラー」は「メンタルヘルスなどの問題を専門とするキャリアコンサルタント」「発達障害・精神障害などを専門とするキャリアコンサルタント」が必要になると、他に比べて多く回答した。

以上の結果から、キャリアコンサルティング関連資格の中では最も専門性の高い1級キャリアコンサルティング技能士では組織全体・組織風土に関与していく活動に相対的には関心が持たれていること、最近のキャリアコンサルタント登録者である試験合格で登録したキャリアコンサルタント資格取得者では専門領域別、業種別・業界別のキャリアコンサルタント、ハラスメント等の問題に関心が持たれていること、従来からのキャリアコンサルタントであるベテランの資格取得者が多く含まれる旧標準キャリアコンサルタントとみられる資格取得者ではメンタルヘルス、発達障害・精神障害、ダイバーシティなどに相対的に関心が強く持たれていることが示される。

図表5-27 取得資格別にみた今後のキャリアコンサルティングのあり方

	専門領域別のキャリアコンサルタント	業種別・業界別のキャリアコンサルタント	コーチングやリーダー養成を専門とするキャリアコンサルタント	組織開発や組織文化に取り組むキャリアコンサルタント	地域の企業や自治体、学校等と連携して活動するキャリアコンサルタント	メンタルヘルスなどの問題を専門とするキャリアコンサルタント	発達障害・精神障害などを専門とするキャリアコンサルタント	ハラスメントの問題に専門的に関わるキャリアコンサルタント	ダイバーシティ、多文化の問題に関わるキャリアコンサルタント	個人のキャリア発達・キャリア構築に深く関わるキャリアコンサルタント	社会正義を志向するキャリアコンサルタント
1級キャリアコンサルティング技能士	15.2%	8.7%	4.3%	23.9%	6.5%	4.3%	13.0%	0.0%	10.9%	6.5%	6.5%
2級キャリアコンサルティング技能士	12.8%	3.9%	2.9%	11.8%	12.7%	10.9%	16.2%	1.3%	8.0%	14.6%	4.8%
キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)	15.7%	8.2%	2.6%	8.3%	11.5%	12.9%	11.8%	2.1%	6.3%	17.0%	3.4%
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録)	13.5%	5.7%	3.9%	10.2%	13.8%	11.9%	14.8%	0.8%	7.2%	14.0%	4.2%
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格	13.9%	3.8%	3.2%	11.4%	13.3%	11.3%	15.6%	0.7%	8.9%	14.6%	3.3%
産業カウンセラー	13.7%	5.0%	2.7%	10.4%	9.8%	14.9%	16.6%	1.8%	6.6%	14.6%	4.1%
心理相談員	14.2%	3.2%	1.9%	11.4%	8.9%	14.6%	17.7%	1.9%	6.3%	14.6%	5.4%
コーチング資格	9.0%	5.5%	6.2%	23.4%	11.0%	6.2%	10.3%	1.4%	8.3%	14.5%	4.1%
臨床心理士	5.9%	5.9%	2.9%	17.6%	8.8%	14.7%	32.4%	2.9%	5.9%	2.9%	0.0%
認定心理士	9.6%	1.0%	2.9%	10.6%	15.4%	15.4%	22.1%	1.0%	5.8%	13.5%	2.9%
教育カウンセラー	19.5%	0.0%	4.9%	4.9%	7.3%	4.9%	26.8%	2.4%	4.9%	19.5%	4.9%
教育職員免許	13.3%	6.9%	2.2%	8.8%	15.5%	11.6%	15.2%	1.1%	8.0%	11.6%	5.8%
社会福祉士(ソーシャルワーカー)	4.4%	2.2%	2.2%	15.6%	8.9%	13.3%	26.7%	0.0%	2.2%	17.8%	6.7%
精神保健福祉士	7.3%	1.8%	1.8%	9.1%	12.7%	18.2%	32.7%	0.0%	0.0%	10.9%	5.5%
衛生管理者	14.3%	4.4%	3.6%	11.4%	13.5%	10.6%	12.7%	1.6%	7.0%	17.1%	3.6%
医師・看護師・保健師	4.3%	19.1%	6.4%	8.5%	6.4%	14.9%	21.3%	0.0%	6.4%	12.8%	0.0%
社会保険労務士	16.7%	8.3%	1.4%	12.5%	16.0%	11.1%	11.1%	2.1%	4.2%	15.3%	1.4%
中小企業診断士	6.7%	10.0%	0.0%	30.0%	10.0%	13.3%	3.3%	3.3%	10.0%	13.3%	0.0%
税理士	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ファイナンシャル・プランナー	15.7%	6.1%	2.6%	9.3%	12.8%	12.1%	13.1%	1.3%	7.7%	16.0%	3.5%
関連資格は持っていない	0.0%	11.1%	0.0%	5.6%	27.8%	22.2%	5.6%	0.0%	0.0%	22.2%	5.6%

※sig.は有意水準、**p<.01 * p<.05。統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい箇所に網かけ、小さい箇所に下線を付した。

8. 取得資格別の主な相談内容

図表5-28に、取得資格別の主な相談内容を示した。表から、①「1級キャリアコンサルティング技能士」「2級キャリアコンサルティング技能士」では「発達障害に関すること」が他の資格に比べて統計的に有意に多い。②「2級キャリアコンサルティング技能士」では「履歴書やエントリーシート の書き方・添削等」も他の資格に比べて統計的に有意に多い。③「キャリアコンサルタント資格（試験合格で登録）」は「現在の仕事・職務の内容」「企業内の異動希望等」「将来設計・進路選択」が他の資格に比べて統計的に有意に多い。④「キャリアコンサルタント資格（経過措置で登録）」は「過去の経験の棚卸し、振り返り等」「職業適性・自己分析」「学生生活に関すること」が他の資格に比べて統計的に有意に多い。⑤「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」は「就職・転職活動の進め方」「過去の経験の棚卸し、振り返り等」「履歴書やエントリーシート の書き方・添削等」が他の資格に比べて統計的に有意に多い。

その他、概して「心理相談員」「臨床心理士」「認定心理士」等のより心理学的な資格では「メンタルヘルスに関すること」「発達障害に関すること」「職場の人間関係」「個人的な生活面に関すること」が他の資格に比べて統計的に有意に多い。一方で、「コーチング資格」では「現在の仕事・職務の内容」「部下の育成・キャリア形成」、「衛生管理者」では「現在の仕事・職務の内容」「企業内の異動希望等」「職場の人間関係」、「社会保険労務士」「中小企業診断士」では「現在の仕事・職務の内容」等、より企業組織に関わりの深い資格では企業内の仕事や異動希望等が他の資格に比べて統計的に有意に多かった。

図表5-28 取得資格別の主な相談内容

	現在の仕事・職務の内容	今後の生活設計、能力開発計画、キャリアプラン等	企業内の異動希望等	職場の人間関係	部下の育成・キャリア形成	就職・転職活動の進め方	将来設計・進路選択	過去の経験の棚卸し、振り返り等	履歴書やエントリーシート の書き方・添削等	職業適性・自己分析	面接の受け方	個人的な生活面に関すること(家庭生活や人間関係など)	学生生活に関すること(授業やゼミの選択など)	メンタルヘルスに関すること	発達障害に関すること	その他
1級キャリアコンサルティング技能士 N=46	31.1%	40.0%	2.2%	33.3%	15.6%	35.6%	24.4%	20.0%	37.8%	17.8%	13.3%	6.7%	4.4%	4.4%	13.3%	0.0%
2級キャリアコンサルティング技能士 N=686	28.4%	31.4%	5.9%	28.8%	10.7%	44.7%	15.2%	16.6%	41.0%	17.4%	24.1%	13.1%	2.4%	11.4%	7.8%	1.2%
キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録) N=757	39.1%	31.7%	9.5%	29.6%	12.5%	42.8%	19.2%	13.2%	33.9%	15.1%	19.9%	13.0%	2.6%	11.7%	4.8%	1.5%
キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録) N=1886	30.0%	35.3%	6.3%	27.0%	10.8%	42.3%	15.4%	20.4%	36.5%	18.3%	22.5%	11.3%	3.3%	12.9%	6.4%	1.2%
旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格 N=968	27.6%	36.3%	5.6%	24.5%	11.0%	46.7%	15.6%	21.0%	41.5%	16.1%	23.9%	11.6%	2.3%	9.9%	5.3%	1.1%
産業カウンセラー N=1230	32.6%	32.9%	7.7%	33.4%	11.7%	38.7%	13.8%	16.6%	33.5%	15.7%	19.1%	13.6%	1.6%	18.9%	8.8%	1.5%
心理相談員 N=316	36.1%	31.5%	6.2%	36.9%	12.0%	34.9%	11.6%	15.4%	28.2%	14.1%	13.7%	17.0%	2.5%	25.7%	11.6%	2.5%
コーチング資格 N=145	42.9%	37.8%	10.1%	33.6%	25.2%	31.1%	18.5%	10.1%	26.1%	16.0%	18.5%	10.9%	0.8%	11.8%	6.7%	0.0%
臨床心理士 N=34	36.7%	33.3%	10.0%	43.3%	13.3%	20.0%	13.3%	3.3%	23.3%	10.0%	13.3%	10.0%	0.0%	46.7%	23.3%	0.0%
認定心理士 N=104	25.0%	23.7%	5.3%	31.6%	7.9%	39.5%	10.5%	18.4%	36.8%	10.5%	17.1%	21.1%	5.3%	28.9%	18.4%	0.0%
教育カウンセラー N=41	28.1%	25.0%	3.1%	43.8%	18.8%	28.1%	6.3%	6.3%	21.9%	18.8%	12.5%	25.0%	9.4%	25.0%	25.0%	3.1%
教育職員免許 N=362	27.4%	35.6%	8.5%	24.1%	9.3%	41.9%	17.8%	15.6%	35.2%	19.3%	24.4%	15.9%	4.8%	11.1%	7.4%	1.9%
社会福祉士(ソーシャルワーカー) N=45	29.4%	32.4%	0.0%	26.5%	8.8%	44.1%	14.7%	14.7%	17.6%	11.8%	5.9%	38.2%	0.0%	29.4%	23.5%	2.9%
精神保健福祉士 N=55	14.0%	27.9%	2.3%	30.2%	4.7%	32.6%	11.6%	4.7%	20.9%	20.9%	9.3%	32.6%	2.3%	48.8%	32.6%	4.7%
衛生管理者 N=385	44.4%	37.9%	13.4%	34.5%	15.3%	35.2%	13.4%	16.1%	24.1%	14.2%	18.0%	7.3%	2.7%	16.9%	5.4%	1.1%
医師・看護師・保健師 N=47	40.0%	36.0%	12.0%	60.0%	20.0%	8.0%	8.0%	24.0%	24.0%	0.0%	0.0%	16.0%	4.0%	32.0%	12.0%	4.0%
社会保険労務士 N=144	49.0%	43.0%	4.0%	35.0%	14.0%	30.0%	22.0%	18.0%	22.0%	14.0%	16.0%	11.0%	1.0%	15.0%	6.0%	0.0%
中小企業診断士 N=30	62.5%	56.3%	18.8%	37.5%	25.0%	25.0%	12.5%	6.3%	18.8%	0.0%	0.0%	25.0%	6.3%	0.0%	6.3%	0.0%
税理士 N=3	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ファイナンシャル・プランナー N=313	34.3%	40.9%	7.0%	23.0%	7.8%	45.2%	18.7%	17.0%	33.0%	17.8%	19.1%	13.5%	2.6%	14.3%	4.3%	1.3%
関連資格は持っていない N=18	33.3%	66.7%	0.0%	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※sigは有意水準、** p<0.01 * p<0.05。統計的に有意な箇所について調整済み残差を求め、5%水準で値が大きい箇所を網かけ、小さい箇所を下線を付した。

上述の結果から、取得資格と主な相談内容には一定の傾向があることが推測されたことから、図表5-29では取得資格と主な相談内容の対応関係を検討すべく、コレスポネン

分析の結果を示した。この図は、近くにあるものは類似の傾向を持つ対応関係にあり、遠くにあるものは類似の傾向を持たないと解釈することができる。

図から、国家資格キャリアコンサルタントの登録者が、他に合わせ持つ資格と主な相談内容の対応関係には、おもに3つのグループがあることが示される。

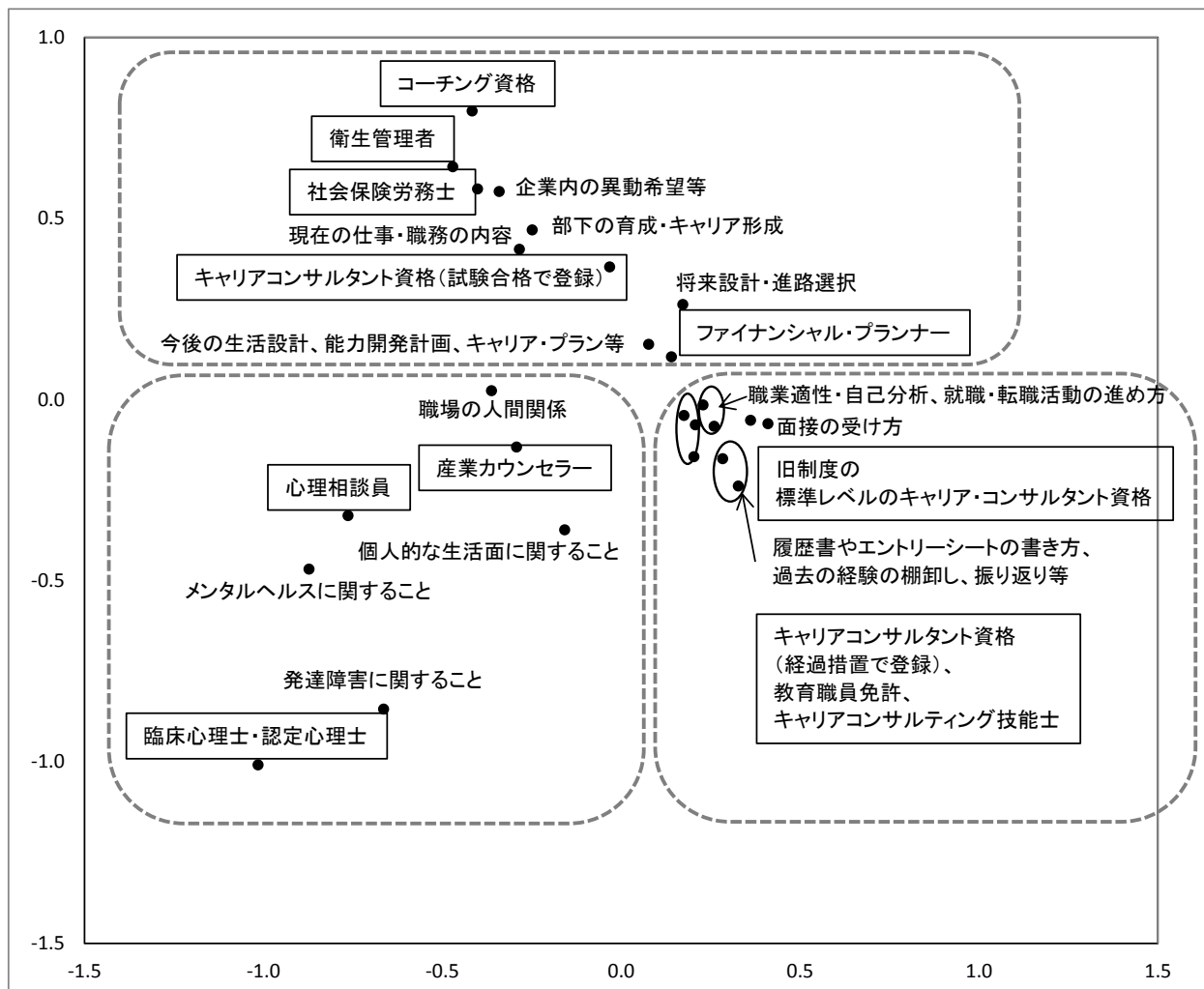
1つ目は、「コーチング資格」「衛生管理者」「社会保険労務士」「ファイナンシャルプランナー」と「企業内の異動希望等」「部下の育成・キャリア形成」「現在の仕事・職務の内容」「将来設計・進路選択」「今後の生活設計、能力開発計画、キャリア・プラン等」のグループであり、おもに企業内のキャリアコンサルティングに関する相談内容のグループである。そして、「キャリアコンサルタント資格（試験合格で登録）」がこのグループに入ることから、平成28年度以降の試験に合格してキャリアコンサルタントとして登録した新しい層は、おもに企業内の相談内容を取り扱うキャリアコンサルティングと関連が深いものと解釈することができる。

2つ目は、「産業カウンセラー」「心理相談員」「臨床心理士・認定心理士」と「職場の人間関係」「個人的な生活面に関する事」「メンタルヘルスに関する事」「発達障害に関する事」のグループであり、おもにメンタルヘルスおよびパーソナルな問題に関する相談内容のグループである。これらの資格を合わせ持つキャリアコンサルタントは、臨床心理士に象徴されるより心理的な相談内容を取り扱うことが多いことが示される。

3つ目は、「旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格」「キャリアコンサルタント資格（経過措置で登録）」「教育職員免許」「(1級・2級)キャリアコンサルティング技能士」と「職業適性・自己分析」「就職・転職活動の進め方」「面接の受け方」「履歴書やエントリーシートの書き方」「過去の経験の棚卸し、振り返り等」のグループであり、おもに官民の需給調整機関および学校・教育機関等で従来からキャリアコンサルタントが取り扱ってきた相談内容のグループである。ここに位置する相談内容が、従前からのキャリアコンサルタントが取り扱ってきた相談内容であり、それ故、キャリアコンサルティングが対応してきたより本質的・中核的・中心的な相談内容であるという捉え方も可能である。

国家資格キャリアコンサルタントの登録者が、他に合わせ持つ資格には、すなわち、キャリアコンサルタントが他に關心を持っている相談内容・領域が示されていると解釈される。その場合、キャリアコンサルタントは基本的に、①企業内の相談を取り扱うキャリアコンサルティング、②メンタルヘルス・パーソナルな問題に対応するキャリアコンサルティング、③就職・転職等を支援する従来からのキャリアコンサルティングの3つに分けられると整理される。そして、おもに最近のキャリアコンサルタント登録者である平成28年以降の試験合格による登録者が、企業内の相談を取り扱うキャリアコンサルティングに關心を持つと明確に位置づけられる以上、従来からのキャリアコンサルティングには一定の変化がみられており、より企業内の相談を取り扱うキャリアコンサルタントに問題関心が拡大していると解釈することができる。

図表5-29 取得資格と主な相談内容の対応関係



9. キャリアコンサルタントの資格取得状況(まとめ)

本章の結果を、おもにキャリアコンサルティング関連資格に着目して、図表5-30にまとめた。この表から次の諸点を指摘しうる。

①「キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)」のみ、他の資格を持つ者と比較して特に異なる特徴がみられた。具体的には、年齢が相対的に若い(20~30代が多い)ため、係長・主任、職長相当職に就いている者が多く、キャリアコンサルタントとしての通算活動年数が短かった(1年未満、1年以上5年未満が多い)。また、企業領域で正社員として働く者が多く、例えば業種では製造業で働く者が多かった。さらに、対応する相談内容は、上の図表5-29で示したとおり、基本的に企業領域で働く若いキャリアコンサルタントであり、そのため企業内の相談内容であることが多かった。

この資格を持つ者は、平成28年度以降の登録試験機関が行うキャリアコンサルタント試験を受験して合格した者であり、この1~2年のキャリアコンサルタント登録者である。し

たがって最近のキャリアコンサルタントの特徴をよく表すものと解釈することができる。そうした場合、キャリアコンサルタントの登録を行った最近のキャリアコンサルタントはおもに企業領域で働く若いキャリアコンサルタントが中心であると考えることができ、今後、この層がキャリアコンサルタントとしての経験を蓄積し、キャリアコンサルタントの中心となると想定される。この点を、最近のキャリアコンサルタントの資格取得状況の特徴として、第一に指摘しうる。

図表5-30 キャリアコンサルティング関連資格間の相対的な特徴

	1級キャリアコンサルティング技能士	2級キャリアコンサルティング技能士	キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)	キャリアコンサルタント資格(経過措置で登録)	旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格
年齢		60代が多い	20～40代が多い	70代が多い	60～70代が多い
性別		女性が多い			
就労形態	フリー・自営が多い	フリー・自営が多い	正規社員が多い	フリー・自営が多い	フリー・自営が多い
勤務先の業種	教育・学習支援、公務(職業相談・職業紹介)が多い	教育・学習支援、公務(職業相談・職業紹介)が多い	製造業が多い		
活動領域		教育、公務が多い	企業が多い	教育が多い	公務が多い
仕事内容		主にキャリアコンサルタントの仕事が多い	企画・マーケティングが多い		主にキャリアコンサルタントの仕事が多い
役職	その他が多い		係長、主任、職長相当職が多い		
活動頻度	ほぼ毎日活動が多い	ほぼ毎日活動が多い	活動していないが多い	週2～3回、不定期が多い	ほぼ毎日活動が多い
通算活動年数	10年以上が多い	5～10年、10年以上が多い	1年未満、1～5年が多い	5～10年、10年以上が多い	5～10年、10年以上が多い
専業・兼業	専任・専業が多い	専任・専業、75%以上が多い			専任・専業が多い
生計状況	キャリアコンサルティングだけで生計を立てている者が多い	キャリアコンサルティングだけで生計を立てている者が多い			キャリアコンサルティングだけで生計を立てている者が多い
収入	800万以上が多い	200～400万円が多い			200～400万円が多い
満足感	とても満足しているものが多い	とても満足している者が多い	満足していない者が多い	やや満足している者が多い	とても満足している者が多い
有用感	とても役立っている者が多い	とても役立っている者が多い	ほとんど役立っていない者が多い		とても役立っている者が多い
相談内容(他の資格と比べた際の相対的な特徴)	発達障害に関することが多い	履歴書やエントリーシートの書き方、発達障害に関することが多い	現在の仕事・職務の内容、企業内の異動希望、将来設計に関することが多い	過去の経験の棚卸し、職業適性・自己分析、学生生活に関することが多い	就職・転職活動の進め方、過去の経験の棚卸し、履歴書やエントリーシートの書き方に関することが多い

※他の資格と比べた際の相対的な特徴を表に示した。例えば、年齢はどの資格でも基本的に50代が最も多いが、他の資格と比べれば、「キャリアコンサルタント資格(試験合格で登録)」は「20～40代」が多い。

②一方、その他のキャリアコンサルティング関連資格を持つ者は、広い意味では類似した特徴を持つ。相対的に年齢が高い者が多く、通算活動年数も高い。フリー・自営で働いている者もやや多い。活動領域は学校か公務が多い。これは、以前から、旧制度の標準レベルのキャリア・コンサルタント資格を取得した後、一定の実務経験年数を経て1級キャリアコンサルティング技能士、2級キャリアコンサルティング技能士などの上位資格の取得を目指すルートが一般的であったことによる。

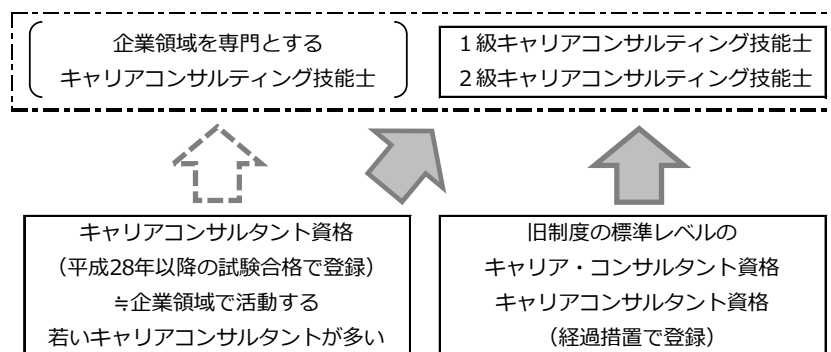
その際、実際に1級キャリアコンサルティング技能士および2級キャリアコンサルティング技能士までを合わせて取得している場合、どのような特徴が見られるのかは1つの検討す

べき重要なテーマとなる。「1級キャリアコンサルティング技能士」と「2級キャリアコンサルティング技能士」は、従来、標準レベルのキャリアコンサルタント資格の上位資格として、それぞれ「指導レベル」「熟練レベル」と位置づけられると想定されてきた。したがって、上位資格として位置づけられているキャリアコンサルティング技能士が上位資格に見合った有意義な活動を行い得ているのかは、緩やかな階層構造をもつキャリアコンサルタント制度の根幹を貫く1つの重要な知見となる。

そうした視点で結果をみた場合、1級キャリアコンサルティング技能士は、フリー・自営で働く割合が相対的に多く、ほぼ毎日、キャリアコンサルタントとして専任・専業で活動しており、収入も他のキャリアコンサルタント資格に比べれば若干高い者が多い。そのため、キャリアコンサルタント資格に対する満足感も有用感も高い。2級キャリアコンサルティング技能士は、1級キャリアコンサルティング技能士ほどではないが、若干なりとも似たような結果を示していた。これらの知見を総合すれば、キャリアコンサルティング技能士は、やはり従来考えられてきたように、キャリアコンサルティング関連資格の中で相対的に上位資格としてある程度まで機能していると考えられる。

③上記2点の結果は、図表5-31のように集約することができる。この図から、平成28年以降の試験合格でキャリアコンサルタントの資格を取得した比較的最近のキャリアコンサルタントの今後の動向に関する課題を指摘しうる。すなわち、従来、旧制度の標準レベルのキャリアコンサルタントから、熟練レベルの2級キャリアコンサルティング技能士、指導レベルの1級キャリアコンサルティング技能士へと至るキャリアコンサルティング関連資格の階層構造があった。その中に、平成28年度以降の試験合格で登録した最近のキャリアコンサルタントはいかに位置づくことになるのかが課題となる。最も穏当な見通しとしては、今後も1級および2級キャリアコンサルティング技能士は、比較的最近のキャリアコンサルタント登録者の事実上の上位資格として機能しうるとするものである。この場合、従来どおりキャリアコンサルティング関連資格を考えていくので十分であり、特別な対応は必要とならない。

図表5-31 キャリアコンサルティング関連資格の今後のあり方



しかしながら、一方で、最近のキャリアコンサルタント資格の取得者は、企業領域で活動する年齢の若い者が相対的に多いことを重視するならば、今後、キャリアコンサルタントの上位資格は従来のキャリアコンサルティング技能士とは異なる内容を持つ、より企業領域を指向した別のものへと大きな変化が求められる。その場合、従来のキャリアコンサルティング技能士とは別立ての階層構造、規格、制度の資格が潜在的には求められることとなる。

現実には、従来のキャリアコンサルティング関連資格の階層構造を維持しつつ、同時に、企業領域で活動する最近の若い資格取得者がキャリアコンサルタントとして経験やスキルを蓄積する中で、次第に企業領域を専門とするキャリアコンサルティング技能士として成長していくことが考え得る。結果的に、キャリアコンサルティング技能士の性質や内容が緩やかに変化していくということになる。その意味では、いわゆるキャリアコンサルタントの国家資格化は将来においてキャリアコンサルティング関連資格のターニングポイントの1つであったと振り返られることになる。今後、キャリアコンサルティング関連資格の議論を行うにあたっては、本章で得られた知見も何らかの有益な情報をもたらすものと思われる。